

第57回豊崎由美アワー「読んでいいとも！ガイブンの輪」年末特別企画

オレたち外文リーガーの自信の1球と 来年の隠し球 vol.7

新潮社

★今年のイチ押し

◎ミランダ・ジュライ／岸本佐知子訳『最初の悪い男』（新潮クレスト・ブックス）＊アメリカ

◎トム・ハンクス／小川高義訳『変わったタイプ』（新潮クレスト・ブックス）＊アメリカ

上記2冊は新潮クレスト・ブックス創刊20周年記念として8月に同時刊行。

きょうお配りした創刊20周年記念の冊子「海外文学のない人生なんて」にミランダ・ジュライとトム・ハンクス、それぞれのインタビュー、ミランダ・ジュライの翻訳者、岸本佐知子さんのコラム、『大家さんとぼく』の矢部太郎さんによるマンガが載っています（p2-19）。

また、小川高義さんと角田光代さん、松家仁之さんとの座談会では、トム・ハンクスの短篇集のびっくり仰天の面白さについてたっぷりと語られています（p22-29）。どうぞゆっくりとごらんください。

◎ジョゼ・ルイス・ペイショット／木下真穂訳『ガルヴェイアスの犬』（新潮クレスト・ブックス）＊ポルトガル

「ガルヴェイアス」というのはポルトガルの人口1000人ほどの小さな村。作家の故郷であるこの村を舞台に奇想天外な物語が繰り広げられます。11月に来日したペイショットさんのインタビューがweb朝日「好書好日」に。中島京子さんとの対談は来年早々に「web考える人」にアップします。

◎パオロ・コニェッティ／関口英子訳『帰れない山』（新潮クレスト・ブックス）＊イタリア

静謐な作品ながら30万部というイタリアでは異例のベストセラーとなり、ストレーガ賞と同賞ヤング部門のダブル受賞という史上初の快挙をなしとげた『帰れない山』。上記ブックレット「海外文学のない人生なんて」に関口英子さんによる詳しい紹介があります（p36-37）。11月のEU文芸フェスに来日した著者と松家仁之さんとの対談は「web考える人」に来月アップ予定です。

★来年の隠し球（基本的に仮題）

1月

◎ソナーリ・デラニヤガラ／佐藤澄子訳『波』（新潮クレスト・ブックス、＊スリランカ、冊子p38）

2004年、クリスマスの翌日、スリランカ南部の沿岸をスマトラ沖地震が襲った。大津波により、幼い息子二人と夫、両親を一度に失った経済学者による、喪失と再生のメモワール。

2月

◎トルーマン・カポーティ／小川高義訳『ここから世界が始まる——カポーティ初期短篇集』＊アメリカ

NYの公共図書館で発見された10～20代初めに書かれた14篇。天才作家の若き日の才能がきらめく小さな短篇集。

3月

◎エマヌエル・ベルクマン／浅井晶子『トリック』（新潮クレスト・ブックス、＊ドイツ、冊子p45）

ナチス政権下で栄華を極めた老奇術師と、両親が離婚の危機にある少年が、21世紀のLAで出会う。ドイツの新人作家による15か国出版のベストセラー長篇。

（新潮クレスト・ブックス）4月以降順不同

◎ジュンパ・ラヒリ／中島浩郎訳『わたしのいるところ』（＊インド系アメリカ、イタリア語）

◎ベルナルド・アチャガ／金子奈美訳『アコーディオン弾きの息子』（*スペイン/バスク、冊子P46）

◎カルミネ・アバーテ／関口英子訳『結婚式の宴』（イタリア）

◎ロベルト・ゼーターラー／浅井晶子訳『ある一生』（ドイツ）

◎リュドミラ・ウリツカヤ／前田和泉訳『緑の天幕』（ウクライナ）……………ほか

〈ナボコフ・コレクション〉

3月 ウラジーミル・ナボコフ／沼野充義・小西昌隆訳『賜物 父の蝶』

6月 ウラジーミル・ナボコフ／若島正・後藤篤訳『ロリータ 魅惑者』

〈現代アメリカを代表する3人の作家たち〉

◎トマス・ピンチョン／佐藤良明訳『ブリーディング・エッジ』

◎ポール・オースター／柴田元幸訳『サンセット・パーク』

◎リチャード・パワーズ／木原善彦訳『オーバーストーリー』

〈こんな本も〉

◎クリストファー・イシャウッド／横山貞子訳『キャスリーンとフランク』

イシャウッド最後の本。キャスリーンは母、フランクは父。19世紀末、娘時代に始まる母の日記と戦場から送られた父の日記で構成されたメモワール。全1400枚。2段組み560頁。3年前に93歳で亡くなった哲学者の鶴見俊輔さんが4回読んだというほど面白い。

株式会社クオン

★今年のイチ押し

◎【新しい韓国の文学シリーズ18】ハン・ガン／古川綾子訳『そっと 静かに』

音楽との出会いや様々な思い出にまつわる歌、著者自身がつくった歌について綴ったエッセイ集。実はこの本、6年前から企画を温めていたクオンの「隠し玉」でした。現在原書は品切・重版未定のため、韓国のハン・ガンファンでも読んだことが無い人がいるかもしれません。邦訳刊行にあたり、公開用の音源（詩や小説の朗読、自作の曲など）を自らセレクトしてくださったハン・ガンさんにも感謝です。

◎【韓国文学ショートショートシリーズ きむ ふなセレクション01】チョン・ミギョン／きむ ふな訳『夜よ、ひらけ』

今年10月にスタートした「韓国文学ショートショートシリーズ」は、翻訳家きむ ふながお勧めする作家の短編を、韓国語原文と邦訳、さらに韓国語の朗読音声で楽しめるシリーズです。その第1巻は2017年に急逝した作家チョン・ミギョンの代表作（李箱文学賞受賞）。成功した映画監督の「僕」がノルウェーに住む旧友を約十年ぶりに訪ねていく3日間を通して人間の歪んだ欲望と不安、突然迫りくる人生の破局を描き出す、余韻の深い作品です。

◎【新しい韓国の文学シリーズ19】チェ・ウニョン著／吉川凧監修、牧野美加・横本麻矢・小林由紀訳『ショウコの微笑』

東アジア文学フォーラムにも登壇したチェ・ウニョンの短編集第1作で、10万部を超えるベストセラー短編集『ショウコの微笑』。作品の時代設定や舞台は様々ですが、哀しみ苦しみを抱えながら、他者と対話しかかわることで自らの人生に向き合おうとする人々が描かれています。この本を課題作とした第1回「日本語で読みたい韓国の本 翻訳コンクール」の受賞者による翻訳でお楽しみください。

1月30日には著者と温又柔さんのトークショーが開かれます。こちらもお越しください！

★来年の隠し玉 *タイトルや刊行時期は変更となる可能性があります

◎【韓国文学名作シリーズ01】崔仁勲／吉川凧訳『広場』

同時代の作品が次々と邦訳されるようになった今だからこそ一層深く韓国文学を味わっていただきたいという思いから、1960年以降に発表された小説や詩の名作を順次刊行していきます。シリーズ第1弾は崔仁勲の『広場』（1961年刊）。それまでタブーだった朝鮮半島の南北分断を扱い、生きる方向を見いだせない主人公を描いた名作を吉川凧さんの新訳でお届けします。

また、本シリーズと並行して、韓国文学の流れや主要作品を紹介するガイドブックも刊行予定です。

◎朴景利『完全版 土地』9巻（吉原育子訳）、10巻（吉川凧訳）、11巻（清水知佐子訳）

朴景利による大河小説『土地』全20巻の完訳プロジェクトも3年目に入り、9巻から物語は第3部に突入します。韓国では何度も映像化され、さらに世界各国で翻訳されている名作ですが、第3部まで翻訳されるのはクオンの『完全版 土地』が初めてです（ダイジェスト版を除く）。9巻からは吉原育子さんも翻訳チームに加わり、2020年の20巻刊行まで進んでいきます。

◎韓国文学ショートショートシリーズ きむ ふなセレクション06～10

現在開催中の第2回「日本語で読みたい韓国の本 翻訳コンクール」の課題作となっている、チョン・ヨンジュン著『선릉 산책（直訳：宣陵散策）』、ペク・スリン著『고요한 사건（直訳：静かな出来事）』をはじめ、5作品の刊行を予定しています。韓国語の朗読音声も順次増やしていく予定です。

◎【新しい韓国の文学シリーズ20】キム・フン／戸田郁子訳『黒山』

朝鮮王朝による天主教（ローマ・カトリック）信徒への迫害を描いた、キム・フンの代表作です。儒学者、馬子、宮女、寡婦、船頭、島の少年など身分の異なる20人余りが登場し、当時の人々の素朴な暮らしや夢や絶望までもが重厚な筆致で描かれます。歴史小説で真骨頂を発揮するキム・フンの作品に惚れ込んだ戸田郁子さんが、只今翻訳中です。

藤原編集室

★今年のオススメ

◎レオ・ペルッツ／垂野創一郎訳『どこに転がっていくの、林檎ちゃん』 ちくま文庫

元オーストリア陸軍少尉ヴィトーリンは、大戦中の捕虜収容所で司令官セリュコフに受けた屈辱が忘れられず、復讐の決意を胸にロシアへと舞い戻った。革命後の内戦状態のなか、姿を消したセリュコフを探して旅を続けるヴィトーリン。壮大な追跡行の果てに彼を待っていたものとは……。若き日のイアン・フレミングが絶賛したペルッツ最大のヒット作。

◎残雪（ツァンシュエ）／近藤直子訳『黄泥街』白水Uブックス

黄泥街は狭く長い一本の通りだ。両側には様々な格好の小さな家がひしめき、黄ばんだ灰色の空からはいつも真っ黒な灰が降っている。泥と灰に覆われた街には人々が捨てたゴミの山がそこらじゅうにあり、店の果物は腐り、動物はやたらに気が狂う。すべてが腐り、溶解し、崩れていく世界の滅びの物語を圧倒的な文体で描いた世界文学の最前線。

◎マーティン・エドワーズ／森英俊・白須清美訳『探偵小説の黄金時代』国書刊行会

1930年、セイヤーズ、クリスティー、パークリーら錚々たる顔ぶれが集まり、英国探偵作家の親睦団体〈ディテクション・クラブ〉が発足した。同クラブの歴史と作家たちの交流、作品執筆の裏側、戦争や不況など時

代との関わり、さらには興味津々のゴシップまで、豊富なエピソードによって生き生きと描き出し、アメリカ探偵作家クラブ賞を受賞した話題作。

★来年の隠し玉 ※タイトルは仮題です

◆白水社 《白水Uブックス／海外小説 永遠の本棚》

◎フラン・オブライエン／大澤正佳訳『ドーキー古文書』

海辺の町ドーキーの公務員ミックが知りあった科学者ド・セルビィは、厭世が昂じて世界壊滅を企て、大気中の酸素を除去する物質D・M・Pを開発していた。一方、ミックは行きつけの酒場で「ジェイムズ・ジョイスが死んだという報道は眉唾物だ」と聞かされる。世界中で愛されたアイルランド文学の異才オブライエン最後の傑作。

◎イタロ・カルヴィーノ／村松真理子訳『まっふたつの子爵』(仮)

トルコとの戦争へ出かけたメダルド子爵は、敵の砲弾で体をまっふたつに引き裂かれるが奇跡的に一命をとりとめ、右半分だけの体で領地に帰ってくる。だが、その性格は以前とは一変していた……。《我々の祖先》三部作の執筆事情と各作品の意図を作者自ら語った序文を併録(本邦初訳)。[翻訳権取得]

◎シャーロット・ブロンテ／青山誠子訳『ヴィレット』

身寄りのない英国女性ルーシーは、ある王国の首都ヴィレットで寄宿学校の英語教師として働きはじめる。やがてこの街で医者になっていた幼馴染の青年と再会、恋心を抱くが……。複雑な語りの魅力、心理描写によって『ジェイン・エア』以上に成熟した作品との呼び声も高い、ブロンテの文学的到達点。

◆筑摩書房

◎オラフ・ステープルドン／浜口稔訳『スターメイカー』ちくま文庫

肉体を離脱した主人公は、時空を超えた宇宙探索の旅に出る。様々な知性体が生息する惑星世界、銀河帝国と惑星間戦争、生命の進化と興亡の歴史。そこでは星々もまた独自の生を営む生命体だった。宇宙の発生から滅亡までを壮大なスケールとイマジネーションで描く幻想の宇宙誌。改訳文庫化。

◎R・オースティン・フリーマン／淵上瘦平訳『キャッツ・アイ』ちくま文庫

宝飾品コレクションの陳列室で屋敷の主人が殺害された事件は、単純な強盗殺人に思われたが、被害者の弟ローレンス卿は警察の捜査に納得せず、ソーンダイク博士の出馬を要請する。本格推理に伝奇冒険的な要素も加味した代表作。初の完訳。

◆国書刊行会

◎ジェイムズ・ブランチ・キャベル／垂野創一郎訳『イヴについて』(仮)

亡霊シランに自分の体を貸した青年ジェラルドは、もうひとつの体を得て、偉大な魔術の言葉を授けてくれるという文献学者の長が住むアンタンの地をめざした。様々な冒険を重ねながら旅を続けたジェラルドはついに目的の地を目前にするが……。人生に対する深い洞察に満ち、真の知性に裏打ちされた「大人のためのファンタジー」。

◆東京創元社

◎ヒュー・ウォルポール／倉阪鬼一郎訳『銀の仮面』

孤獨な中年女性の日常への美しくも不気味な侵入者を描いて、乱歩が〈奇妙な味〉の傑作と絶賛した表題作ほか、犯罪小説から超自然の怪談まで、精妙な筆致で不安と恐怖の物語を織り上げる名匠ヒュー・ウォルポールの傑作集。新訳短篇を増補して文庫化。

◎ジョン・ディクソン・カー／和爾桃子訳『四つの凶器』創元推理文庫

パリに住む英国人高級娼婦が殺害された。現場には拳銃、剃刀、短剣、睡眠薬と、多すぎる凶器が……。カー最初の探偵アンリ・バンコランのカムバック作を新訳刊行。

集英社

★今年のイチ押し

◎ヤア・ジャシ／峯村利哉訳『奇跡の大地』

18世紀に奴隷貿易で栄えたアフリカの王国で生き別れた姉妹、その子孫たちのドラマティックな運命を描く壮大な大河小説。絶賛の声を浴びた若手黒人女性作家によるデビュー作。2017アメリカン・ブック・アワード受賞!

◎イザベル・オティシエ／橋明美訳『孤島の祈り』

南極近く、氷河を抱く絶景の無人島に取り残された若い夫婦。ペンギンを捕獲して飢えを凌ぐ極限の日々は、人間の精神、ふたりの愛と絆を蝕んでいく…。単独ヨット世界一周を果たした女性冒険家による、フランスベストセラー。

◎デレク・B・ミラー／加藤洋子訳『砂漠の空から冷凍チキン』集英社文庫

22年前、湾岸戦争で目の前で射殺された少女とよく似た娘を救うため、イラクに飛んだ元アメリカ兵とイギリス人記者。黒装束の男たちに捕らわれた彼らを助けたのは……!? 灼熱のサバイバル・スリラー。

◎レイラ・スリマニ／松本百合子訳『ヌヌ 完璧なベビーシッター』集英社文庫

パリ十区のアパルトマンで悲劇が起きた。子守りと家事を任された“ヌヌ”のルイズが、若き夫婦の幼い長女と長男を殺し、自殺を図ったのだ。完璧なヌヌに見えたルイズがなぜ? 2016年フランスのゴンクール賞受賞の話題作。

★来年の隠し玉 (タイトルはすべて仮題)

1月

◎リアノン・ネイヴィン／越前敏弥訳『おやすみの歌が消えて』

小学校に「じゅうげき犯」がきた。ぼくのお兄ちゃんが死んだ——アメリカで起こる銃乱射事件を、6歳の少年の視点で語る衝撃作。子供の悲しみと勇気に心うたれる、家族の絆の物語。

3月

◎ヨアブ・ブルーム／高里ひろ訳『偶然仕掛け人(仮)』

運命のかけに奴らがいる。人々の暮らしの裏で偶然を作り出す「偶然仕掛け人」。ある日新米偶然仕掛け人ガイの元にとんでもない指令が舞い込み!? イスラエルで4万部を突破した、スペキュラティブ・ファンタジー。

4月

◎レイチェル・コン／金子ゆき子訳『Goodbye Vitamin』

婚約者に去られたルースは、仕事を辞めてアルツハイマーの父親の介護を手伝うことに…。辛い現実を軽やかなタッチで描き、全米の話題をさらった日記形式の家族小説。

◎ミチコ・カクタニ『The Death of Truth』 [ノンフィクション]

ソーシャルメディアに蔓延する嘘や、権力者による恣意的な情報操作。民主主義の基盤である「真実」はなぜ失われたのか。様々な文献を参照して論じる、ピューリッツァー賞受賞の著名な文芸評論家による注目作。

6月

◎クリステン・ルーペニアン／鈴木潤訳『You Know You Want This』

ネットでバズった超話題作『Cat Person』収録! ニューヨークer誌初掲載の1篇で全米に #MeToo時代の共感の嵐とジェンダー/世代間の論争を巻き起こした、破格の新星のデビュー短篇集。

◎ユーディト・タシュラー／浅井晶子訳『国語教師(仮)』

16年前にふられた国語教師。彼女の勤務先に、人気作家となった元恋人がゲスト講師として現れる。それぞれに秘密を抱えたふたりのミステリーが、また動き出す……。グラウザー賞受賞作品。

◎カミラ・レックバリ／富山クラークソン陽子訳『魔女(仮)』集英社文庫

『氷姫』から始まった〈エリカ&パトリック事件簿〉シリーズ、ついに最終巻(との噂)!!

7月

◎ホリー・リングランド／三角和代訳『The Lost Flowers of Alice Hart』

オーストラリアで、虐待する両親を誤って殺してしまった少女は、祖母の花農場で暮らすことに。過酷な運命を共にした彼女が、オーストラリア固有種の花とともに力強く生き抜く様を描く。HBOドラマ化決定!

秋

◎ギヨーム・ミュツソ／吉田恒雄訳『Un Appartement à Paris』集英社文庫

夭折した天才的画家の幻の遺作をめぐる謎は、未解決の連続失踪事件につながっていた……。今年『ブルックリンの少女』で話題をさらったギヨーム・ミュツソ、フランスのベストセラー作家の大ヒット作。

白水社

★今年のイチ押し

◎リチャード・フラナガン／渡辺佐智江訳『奥のほそ道』(オーストラリア)

1943年、〈死の鉄路〉建設で地獄のような日々を闘っていた捕虜の軍医ドリゴ・エヴァンス。そこへ一通の手紙が届き、すべてが変わってしまう……。『グールド魚類画帖』で絶賛を博した作家が、第二次世界大戦中の父親の過酷な捕虜経験を題材に、12年の歳月をかけて書き上げ、「傑作のなかの傑作」と激賞されたブッカー賞受賞作。

◎残雪／近藤直子訳『黄泥街』(中国)【Uブックス】「海外小説 永遠の本棚」

黄泥街は狭く長い一本の通り。空から真っ黒な灰が降り、人々が捨てたごみが溢れる街で、物は腐り、動物はやたらに気が狂う。この汚物に塗れ、時間の止まったような混沌の街で、ある男が夢の中で発した「王子光(ワンツーコアン)」という言葉が、一連の奇怪な出来事の始まりだった。すべてが腐り、溶解し、崩れていく世界の滅びの物語を、奔放な想像力と奇想に満ちた圧倒的な語り／騙りによって描き、世界に衝撃をあたえた残雪の第一長篇。

★来年の隠し玉(すべて仮題)

1月

◎フラン・オブライエン 大澤正佳訳『ドーキー古文書』(アイルランド)【Uブックス】「海外小説 永遠の本棚」

Uブックス『第三の警官』『スウィム・トゥー・バーズにて』に続く、アイルランド文学の異才オブライエンによる、奇想小説の代名詞的な傑作。

2月

◎チョ・ナムジュほか／斎藤真理子訳『ヒョンナムオッパへ』(韓国)

韓国のフェミニズム運動の流れを反映した、若手実力派女性作家7名によるフェミニズム小説集。表題作は『82年生まれ、キム・ジョン』の著者、チョ・ナムジュ作。他にサスペンス、SF、ファンタジーなど多様なジャンルの短篇を収録。韓国の女性たちが何に憤ってきたかがよくわかり、異議申し立てを始めた女性たちの息遣いがダイレクトに感じられる。

◎ジェームズ・ボールドウィン／大橋吉之輔訳『ジョヴァンニの部屋』(アメリカ)【Uブックス】(新装版)
トランプ政権下のアメリカで、ボールドウィン作品が再注目される中、『ビール・ストリートの恋人たち』がバリー・ジェンキンス(『ムーンライト』の監督)によって映画化され、2月に公開される。あわせてボールドウィンの代表作を復刊する。

3月

◎郝景芳／及川茜訳『郝景芳短篇集』(中国)【エクス・リブリス】

中国作家として初のヒューゴー賞(中篇小説部門)を受賞した「北京折疊」を収録。いま最も注目される中国SF作家初の短篇小説集。社会格差や高齢化、エネルギー資源、医療問題、都市生活者のストレスなど、現代の中国社会が抱える様々な問題が反映された全7篇。

◎残雪／近藤直子訳『カッコウが鳴くあの一瞬』(中国)【Uブックス】「海外小説 永遠の本棚」

Uブックス『黄泥街』が好評を得ている、作家の独特の世界観がもっとも特徴的にあらわれた初期短篇9編を収録。残雪ファンに人気が高い作品集。

4月

◎デニス・ジョンソン／藤井光訳『海の女神の高潔さ』(アメリカ)【エクス・リブリス】(シリーズ刊行10周年記念作品)

『ジーザス・サン』に続く26年ぶりの第二短篇集。2017年、67歳で亡くなった作家が死の直前に脱稿した遺作で、表題作ほか5篇を収録。「死」と「老い」という主題、荒削りな空気と成熟した視点が共存している。

◎スチュアート・ダイベック／柴田元幸訳『少年時代』(アメリカ)

ロングセラーを記録する『シカゴ育ち』『僕はマゼランを旅した』の作家による第一短篇集。柴田元幸氏が愛してやまない、作家の原風景が描かれる。ファン待望の刊行!

◎デニス・ジョンソン／柴田元幸訳『ジーザス・サン』(アメリカ)【Uブックス】(仮)

悪夢なのか、醒めているのか? 強烈なイメージと圧倒的なパワーに満ちた伝説の傑作短篇集。(エクス・リブリス)の第一弾として刊行した名作を、創刊10周年を記念し、満を持しての復刊。古川日出男氏推薦!

5月

◎林奕含／泉京鹿訳『房思琪(ファン・スーチー)の初恋の樂園』(台湾)

昨年2月に台湾で刊行され、25万部突破の台湾最大の話題作。主人公の房思琪は高級マンションで暮らす13歳の文学好きな美少女。同じマンションに住む50歳の学習塾の国語教師に憧れていた。あるとき、房思琪は国語教師に性的虐待を受け、それが「愛」なのだと思込込まれ、少女の心は壊れていく……。中国、韓国、タイ、米で翻訳刊行。

◎ハンガン／斎藤真理子訳『火とかげ』(韓国)【エクス・リブリス】

『菜食主義者』で李箱文学賞、マン・ブッカー賞を受賞した作家による7つの短篇。家族関係の困難、生活を支える苦勞、LGBT(異性装でバイセクシュアル)の生きづらさ、病気やけがとの苦悶、親友を失った哀しみなど、心を苛むような物語。

◎残雪／近藤直子訳『蒼老たる浮雲』(中国)【Uブックス】「海外小説 永遠の本棚」

髪の毛が生える木、血のように赤い太陽、夥しい蛾や蚊、鼠、死んだ雀、腐った花の匂い、異様なイメージと夢の中のような出来事の連鎖。日本の読書界に衝撃をもたらした、残雪初紹介の作品集。

6月

◎ステューヴン・ミルハウザー／柴田元幸訳『われら他人』(アメリカ)

優れた短篇集に与えられるストーリー賞受賞作。「大気圏外空間からの侵入」ほか7篇を収録。幻想的な時空、驚異の世界を描く際にも、あいまいなイメージに訴えたりはせず、つねに細部まで緻密に描かれ、作家独自のリアリズムに貫かれている。

◎ (新訳) イタロ・カルヴィーノ／村松真理子訳『まっぷたつの子爵』 (イタリア) 【Uブックス】「海外小説 永遠の本棚」

敵の砲弾で体をまっぷたつに引き裂かれたメダルド子爵は、奇跡的に命をとりとめたが、右半身の子爵の性格は、以前と一変していた……。《我々の祖先》三部作の『不在の騎士』『木のぼり男爵』に続く第三弾。金原瑞人氏推薦！

7月

◎ピョン・ヘヨン／姜信子訳『モンスーン』 (韓国) 【エクス・リブリス】

韓国で最も権威ある李箱文学賞受賞作「モンスーン」をはじめ、主要な文学賞受賞作4篇を含む、韓国を代表する作家ピョン・ヘヨンのこの10年の充実の作品群を収録した短篇集。同じことの反復でしかない都市の日常生活から脱出できない状況に置かれた人間たちの不条理を描き出し、抑圧された生の姿を浮かび上がらせる。

◎マギー・ネルソン／西山敦子訳『アルゴノーツ』 (アメリカ)

詩人・批評家である著者が、「流動的な」ジェンダーのドッジに出会って恋に落ち、結婚し、ドッジの息子のステップマザーとなり、自身も妊娠・出産し、生まれた息子を育てる経験の語りと、詩や小説、哲学書、クイア理論の研究書から引かれた言葉の断片が織りなすメモワール。

8月

◎バレリア・ルイセジ／松本健二訳『俺の歯の話』 (メキシコ) 【エクス・リブリス】

オークション司会の芸をもつ「俺」は、町の司祭に乞われて教会の資金集めのためのオークションを主宰する。教会の品のみならず、自分が集めてきた世界各地の入れ歯を競売にかけるが、やがて入れ歯も尽き、自らを競売にかける……。膨大な固有名詞の引用が読者を煙に巻き、思わぬ結末へと導く。メキシコ出身の若手による唯一無二の小説。

9月

◎テレツィア・モーラ／鈴木仁子訳『よそ者の愛』 (ドイツ) 【エクス・リブリス】

ドイツ最高の文学賞、ビューヒナー賞を受賞した、ハンガリー出身の作家による短篇集。ジョギング中にひったくりに遭い、犯人を追いかける孤独な初老の男を描いた「マラソンマン」ほか、社会に溶け込んでいるとはとうてい言えない人々、この世界になじめない「よそ者」たちの物語。

◎シャーロット・ブロンテ／青山誠子訳『ヴィレット』上・下 (イギリス) 【Uブックス】「海外小説 永遠の本棚」

『ジェイン・エア』以上の傑作として近年再評価が進み、デイヴィッド・ロッジ、カズオ・イシグロも愛読書に挙げている。まさにブロンテ文学の到達点。

10月

◎ロドリゴ・フレサン／内田兆史訳『ケンジントン公園』 (アルゼンチン) 【エクス・リブリス】

永遠の名作『ピーター・パン』の生みの親、J・M・バリ。ヴィクトリア朝からエドワード朝時代のロンドンと「スウィング・ロンドン」を交錯させながらJ・M・バリーの生涯をなぞっていく、ロベルト・ボラーニョとも親交のあったアルゼンチンの作家による傑作長篇。

国書刊行会

★今年のイチ押し

◎ドナルド・F・ウェストレイク／矢口誠訳『さらば、シェヘラザード』

★来年の隠し球

- ◎サキ／深町悟訳『ウィリアムが来た時』
- ◎ミシェル・ウエルベック／澤田直訳『ショーペンハウアーとは誰か?』
- ◎『怪奇幻想骨董翻訳箱』垂野創一郎編訳
- ◎『モーリス・ルブラン伝』小林佐江子訳
- ◎ジェイムズ・ブランチ・キャベル《マニュエル伝》シリーズ (全3巻) 中野善夫・安野玲・垂野創一郎訳
- ◎森村たまき『ウッドハウスの世界』
- ◎フランク・マコート／豊田淳訳『教師人生』
- ◎チャールズ・フォート／南山宏訳『呪われた者の書』
- ◎マリー・ボナパルト／倉地恒夫・上西哲雄・及川和夫・星埜守之訳『エドガー・アラン・ポー』
- ◎パトリック・マッケイブ／矢口誠訳『ブッチャー・ボーイ』
- ◎関口英子・橋本勝雄編『21世紀イタリア短篇選集』 (全1巻)
- ◎浅倉久志訳『ユーモア・スケッチ大全』
- ◎ケヴィン・ブラウンロウ／宮本高晴訳『サイレント映画の黄金時代』
- ◎ウィリアム・トレヴァー／宮脇孝雄訳『ディンマスの子供たち』 (ウィリアム・トレヴァー・コレクション)
- ◎ウィリアム・トレヴァー／榎木伸明訳『ラスト・ストーリーズ』
- ◎ジョン・メトカーフ／横山茂雄・北川依子訳『死者の饗宴』 (『煙をあげる脚』改題) (ドーキー・アーカイヴ)
- ◎ステファン・テメルソン／大久保謙訳『イワシ缶の謎』 (ドーキー・アーカイヴ)
- ◎ジョン・ウォーターズ／柳下毅一郎訳『ジョン・ウォーターズの地獄のアメリカヒッチハイク旅行』
- ◎ハーラン・エリスン／若島正・渡辺佐智江訳『愛なんてセックスの書き間違い』 (未来の文学)
- ◎『アルフレッド・ジャリ全集』宮川明子・相磯佳正・谷昌親・永井敦子他訳

河出書房新社

★今年のイチ押し

- ◎ジョージ・ソーンダーズ／上岡伸雄訳『リンカーンとさまよえる霊魂たち』

1862年、急死した最愛の息子の墓を訪れたリンカーンの周りに、霊魂たちが集まり会話を始める。逸物をおったてたヴォルマン、多数の目・鼻・手をもつベヴィンズ三世など、生前の妄執が身体化した霊魂たちは成仏できるのか。南北戦争の史実も織り交ぜた重層的・奇想的物語。2017年ブッカー賞受賞！！

◎ナオミ・オルダーマン／安原和見訳『パワー』

2017年度ベイリーズ賞受賞、20万部ベストセラーの男女逆転・歴史改変ディストピア・エンタテインメント。ある日を境に、世界中の女が強力な電流を放つ力（パワー）を得る。男たちは力を失い、女たちが世界を蹂躪し……。マーガレット・アトウッド絶賛、『侍女の物語』×『ハンガーゲーム』！

◎キャシー・アッカー／渡辺佐智江訳『血みどろ臓物ハイスクール』*河出文庫

「抵抗する——人生ではなく、忘却に」。10歳の少女ジェイニーは、父親と別れてひとり世界を彷徨いはじめる。凶暴なガキの一味「サソリ団」、白人売春婦養成場、ジュネとの邂逅……。詩、戯曲、日記、イラストなど、多様な文体を駆使した重層的物語は、やがて神話的世界へ広がっていく。最終3章の配列を正した決定版！

★来年の隠し球（書名は変更する場合があります）

12月

◎ハン・ガン／斎藤真理子訳『すべての、白いものたちの』

チョコリ、白菜、産着、骨……砕かれた残骸が、白く輝いていた——現代韓国最大の女性作家による最高傑作がついに邦訳。崩壊の世紀を進む私たちの、残酷で偉大ないのちの物語。

1月

◎トーマス・ベルンハルト／池田信雄訳『凍』

おそるべき作家の最初の長編にして最高傑作、ついに邦訳。画家となった男の調査を依頼されて山間部の村に滞在することになった研修医の手記があばく凍りつくほどにきびしいこの世界の真実。

◎フレデリック・ベグベデ／中村佳子訳『終わりなき命』

DNA、iPS細胞、遺伝子組換え、臓器移植、脳のデータベース化……10歳の愛娘と僕＝ベグベデが、不死をもとめる最先端の生命学者に取材するサイエンス（ノン）フィクション。

3月

◎ビアンカ・ベロヴァー／阿部賢一訳『湖』

旧ソ連辺境の湖岸の村——涸れゆく水と、消える村人たち。荒廃した世界で、天涯孤独の少年・ナミは、母を探して旅に出るが……。チェコ新世代女性作家が現代に問う、新たなる黙示録！

◎ロマナ・ロマニーシン&アンドリー・レシヴ／広松由希子訳『音が聴こえてくる絵本』

2017年発表のブラティスラヴァ世界絵本原画展（BIB Plaque、金牌賞）と、今年（2018年度）のボローニャ・ラガッツィ賞（ノンフィクション絵本）をダブル受賞した稀有な作品。絵が音を語る、初めての試み。美しいグラフィックで「音」と「聴くこと」を視覚で表現する、大胆でユニークな試みの一冊です。

4月以降

◎閻連科／泉京鹿訳『日熄』

ある日突然太陽が死に絶え、死の夢遊病に取り憑かれた人々が街にあふれだす。心の奥の欲望をさらけ出し、盗み、奪い、殴りあい、殺人を犯す人々。急激な経済発展を遂げるなか、生も死も管理される現代中国の心を描く別次元の傑作。

◎ジョージ・ソーンダース／岸本佐知子訳『十二月の十日』

ガンに侵された男、中世テーマパークで働く若者、宝くじを当てた貧乏な父親、薬物実験のモルモットとなった囚人たち……ダメ人間たちが陥る出口のない状況を、ポップな会話やスリリングな文章で綴った爆笑的な全米ベストセラー短篇集。

◎ガブリエル・ガルシア＝マルケス／野谷文昭訳『バルタサルの素晴らしい午後——ガルシア＝マルケス中短篇傑作選』

ある日海から流れついた巨大な水死体をめぐり街じゅうが大騒ぎになる「この世でいちばん美しい水死人」や「大佐に手紙は来ない」「エレンディラ」など、傑作中短篇 10 本を名手による新訳で収録する。

◎マルク＝ウヴェ・クリンク／森内薫訳『クオリティ・ランド』

恋人や仕事、趣味・嗜好までがシステムとアルゴリズムで決定される究極の格付社会。「役立たず」となった主人公ピーター・ジョブレスは落ちこぼれロボットを従えて権力に立ち向かう。大統領選に立候補するアンドロイドをはじめ、近未来ドイツを舞台に繰り広げられる爆笑ディストピア小説。

◎マリオ・バルガス＝リョサ／田村さと子訳『五叉路』

フジモリ政権下のペルー。首都リマを舞台に、暴力や性的スキャンダル、邪悪な権力闘争、恐喝、誘拐事件などが渦巻く国家の暗部を、ミステリータッチでスリリングに描いたノーベル賞作家の最新長編。

◎アリ・スミス／岸本佐知子訳『まったきお話、その他の短篇』

人間と植物の恋愛、死神、モダンアート、おとぎ話……。奇想と重層的な語りによって思ってもみない場所に連れて行かれる。現代イギリス随一の名手による「12ヶ月」をめぐる短篇集。

〈須賀敦子の本棚〉

没後 20 年を期して須賀敦子が訳した未刊原稿、須賀敦子が訳した作品を新訳で集める。

◎シャルル・ペギー『クリオ』（宮林寛訳）2月

◎メアリー・マッカーシー『あるカトリック少女の追想』（若島正訳）4月

◎シモーヌ・ヴェイユ『神を待ちのぞむ』（今村純子訳）6月

◎ダヴィデ・マリア・トゥロルド『地球は破壊されはしない』（須賀敦子訳）8月

〈既刊〉

◎ダンテ・アルギエーリ『神曲 地獄篇（第1歌～17歌）』（須賀敦子・藤谷道夫訳／注釈・解説＝藤谷道夫）

◎ウィラ・キャザー『大司教に死来る』（須賀敦子訳）

◎ナタリア・ギンズブルグ『小さな徳』（白崎容子訳）

◎エルサ・モランテ『嘘と魔法（上下）』（北代美和子訳）

早川書房

★今年のイチ押し

◎エドワード・セント・オービン／国弘喜美代・手嶋由美子訳『パトリック・メルローズ』（単行本、全5巻）
ベネディクト・カンバーバッチ主演ドラマ原作！ 優雅で退廃的な、英国貴族的生活の中で、両親がぼくにくれたのは耐えがたい苦痛と、冷酷な無関心——英国を代表する作家の半自伝的小説。ベティ・トラスク賞（英）、フェミナ賞外国小説賞（仏）などを受賞。

◎エリザベス・ストラウト／小川高義訳『何があってもおかしくない』（単行本）

生まれ育った田舎町を離れて、都会で作家として名をなしたルーシー・バートン。17年ぶりに帰郷することになった彼女と、その周囲の人々を描いた短篇9篇を収録。卓越した短篇集に与えられるストーリー賞を受賞した、ピューリッツァー賞作家ストラウトの最新作！

◎ピエール・ルメートル／平岡敦訳『炎の色』（単行本／ミステリ文庫）

1927年、パリ。銀行家の父を亡くしたマドレーヌは、その莫大な遺産を相続する。しかし、その地位を狙う者は多かった。裏切りと詭計に遭いながらも、彼女は闘い生き抜こうとするが。ゴンクール賞受賞作『天国でまた会おう』三部作、一気読み必至の第二作登場！

★来年の「隠し球」 (書名は変更の可能性あります)

メインの2球

◎エイモア・トウルズ／宇佐川晶子訳『A GENTLEMAN IN MOSCOW』

ロシア革命後のモスクワで、反体制的な詩を書いたかどで高級ホテルに30年も監禁された伯爵。狭い空間ながらさまざまな出会いと出来事があった彼の人生を描いたベストセラー！

◎ニック・ドルナソ／フジイ光訳『サブリーナ』

グラフィックノベルとして初のブッカー賞候補選出。現代の病理をえぐる傑作。

1月

◎ジェイムズ・ボールドウィン／川副智子訳『ビール・ストリートの恋人たち』 (単行本)

アカデミー賞受賞映画「ムーンライト」のバリー・ジェンキンス監督映画化！ 冤罪で収監された恋人ファニーを救うため、彼との子を妊娠中のティッシュは奔走するが……若き恋人たちを描いたボールドウィンの名作が新訳で登場。解説：本合陽 (東京女子大学教授)

◎カズオ・イシグロ／飛田茂雄訳『浮世の画家〔新版〕』 (epi文庫)

著者序文を収録した新版！ 戦時中、日本精神を鼓舞する作風で名をなした画家の小野。弟子に囲まれ、尊敬を集める地位にあった彼だが、終戦を迎えたとたん周囲の目は冷たくなった。小野は過去を回想しながら、みずからの信念と新しい価値観のはざまで揺れる。ウィットブレッド賞受賞作。

◎エドワード・セント・オービン／国弘喜美代&手嶋由美子訳『パトリック・メルローズ4 マザーズ・ミルク』 (単行本)

2月

◎ネイサン・ヒル／佐々田雅子訳『ニックス (仮)』 (単行本)

売れない作家は、数十年前に失踪した母の謎の半生を探り始めるが……。

◎チョン・ユジョン／カン・バンファ訳『種の起源 (仮)』 (単行本)

目覚めると、そこに母の死体があった。『七年の夜』で話題の作家が放つサイコミステリ。

◎ケン・リュウ『生まれ変わり (仮)』 (新☆ハヤカワ・SF・シリーズ)

『紙の動物園』『母の記憶に』に続く、現代SFのトップランナーによる日本オリジナル短篇集第3弾

◎エドワード・セント・オービン／国弘喜美代&手嶋由美子訳『パトリック・メルローズ5 アット・ラスト』 (単行本)

3月

◎エレナ・フェッランテ／飯田亮介訳『逃れる者と留まる者 ナポリの物語3 (仮)』 (単行本)

エレナとリラは人生の荒波に襲われつつも友情を保ち続けるが。「ナポリの物語」四部作第三弾！

◎ウィリー・ヴローティン／北田絵里子訳『荒野にて』

孤独な少年は、老いた競走馬を連れて荒野をわたる旅に出る。映画化原作。

4月

◎ジョナサン・フランゼン／岩瀬徳子訳『PURITY』 (単行本)

フランゼン流の『大いなる遺産』！

◎レティシア・コロバンニ／齋藤可津子訳『LA TRESSE (三つ編み)』 (単行本)

遠く離れた国に住む3人の女性を「髪」という絆が結び合わせる、フランスのベストセラー小説！

5月

◎Amor Towles／宇佐川晶子訳『A GENTLEMAN IN MOSCOW』(単行本)

6月

◎マーロン・ジェイムズ／且敬介訳『A BRIEF HISTORY OF SEVEN KILLINGS』(単行本)

1976年にジャマイカで起きたボブ・マーリー暗殺未遂事件を題材にした傑作長編！ ブッカー賞受賞。

7月以降など

◎ジェニファー・イーガン／中谷友紀子訳『MANHATTAN BEACH』(単行本)

『ならずものがやってくる』著者が描くニューヨークの女性潜水士の成長譚

◎ショーン・プレスコット／北田絵里子訳『THE TOWN』(単行本)

さびれゆく郊外を描くためその街にやってきた作家は、街が文字通り「消える」瞬間を目撃する！

◎J・M・クッツェー／鴻巣友季子訳『イエスの少年時代(仮)』(単行本)

『イエスの幼子時代』続篇。街を追われたシモンとダビードたちはさらなる不条理に巻き込まれる！

◎デイヴィッド・ミッチェル『ボーン・クロックス』(単行本)

15歳のホリーは年上の彼氏と駆け落ちした先で超常現象に遭遇し、ある大きな戦いに巻き込まれる。世界幻想文学大賞受賞。

◎アンドリュー・ショーン・グリア／上岡伸雄訳『LESS』(単行本)

売れない作家は元カレの結婚式に参列したくないばかりに世界各地の文学祭へ飛ぶ！ ピュリッツァー賞受賞

◎ニック・ドルナソ／藤井光訳『サブリーナ』(単行本)

◎ロブ・ハート『THE WAREHOUSE』

従業員を徹底的に監視する超巨大企業に女性スパイが忍び込む！ サスペンフルな『一九八四年』。

◎オルハン・パムク／宮下遼訳『KIRMIZI SACLI KADIN (赤い髪の人)』(単行本)

井戸掘りとその弟子が不毛な土地で水を探さなか、ある魅惑的な旅役者の女性に出会い……。

◎金宇澄『繁花』(単行本)

1960～90年代の激動の上海で暮らす人々を生きのいい上海語で描く、80万部超のベストセラー。ウォン・カーウァイ監督が映画化予定。